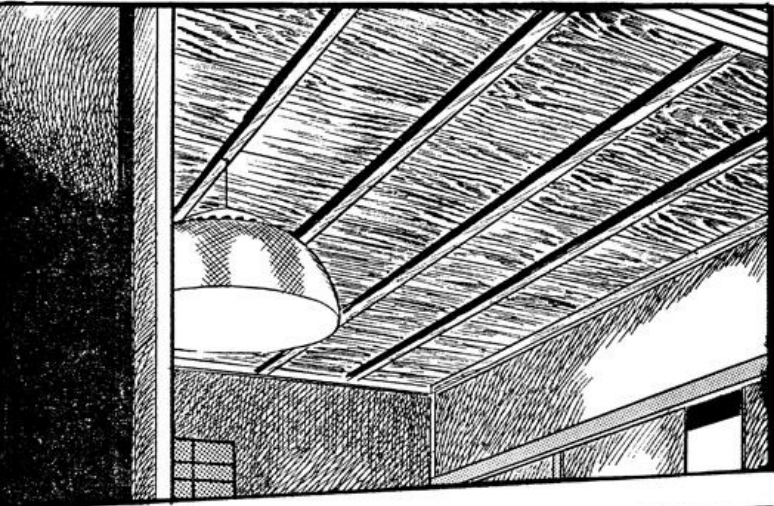


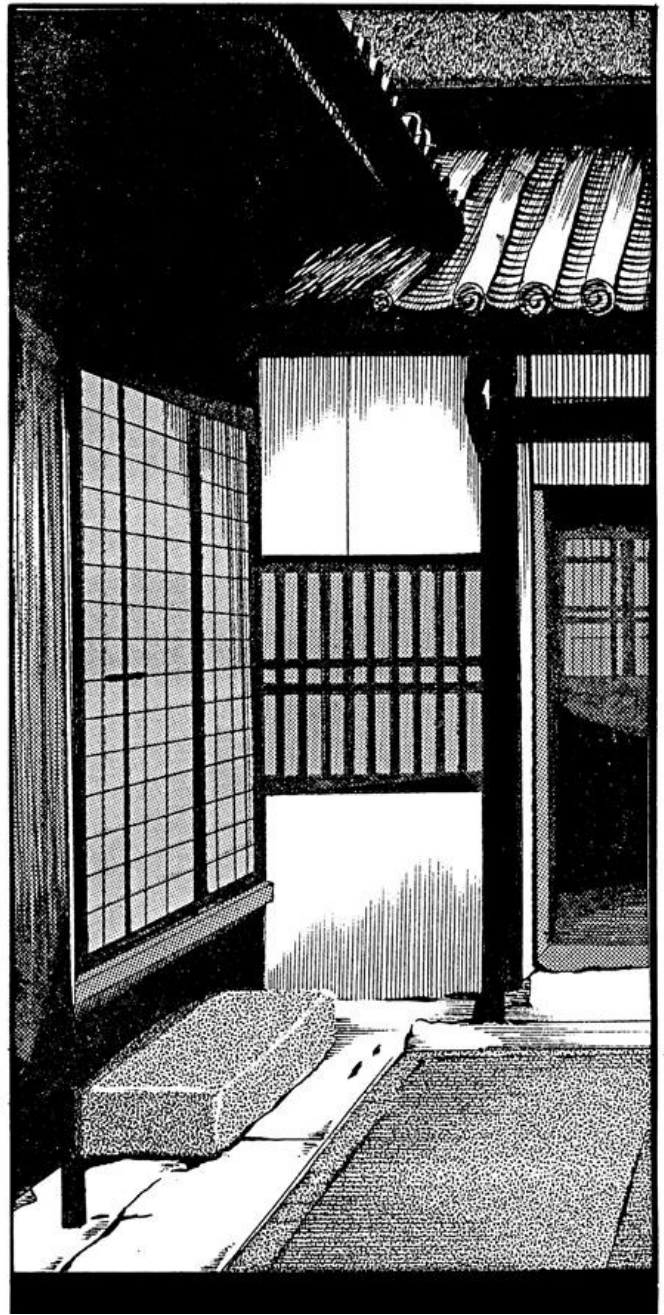
なぶりの困習

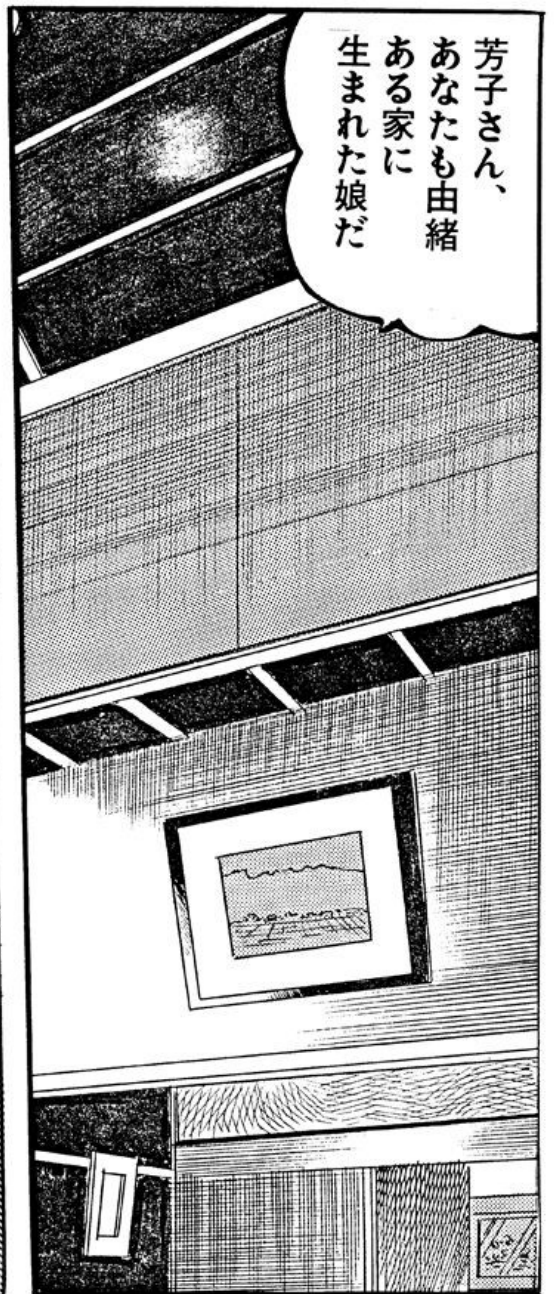


角雨和八



さて、
床入りの
盃ごとも
めでたく
終わった







わしの家内も
西の分家の
弥生さんもそれを
守ってきた



つまり、
あんたは夫である
達雄ひとりのもので
なく、桜沢家の
嫁だと云う事じゃ



わしらと
あんたがたが
お互いに契りを
固めたと云う証しだ

さっき、あんたの
盃を本家から
分家に
まわしたのは



芳子には、
義父である
わしが、おいおい
教えてやるさ



平助、
そこらで
よかろう



どれ、あとは
達雄に任せて
おひらきに
しますか



まあ
そんな所だな

おじさん、
これからはしばらく
僕らが芳子さんの
面倒をみる
わけですね



分家の平助
おじさまが
契りを固めた
証しっておっ
でしたっか？



あ
あの…

こんな時
何んだい？



あれは
どう云う
事なのですか？



君が聞いた通り
松本家の
嫁になった
固めの盃だよ

でも、
西の分家の
一郎兄さんは
私の面倒を
みるって言いましたわ



それは、
うちのさまさまな
しきたりについて
教えてくれるって
事さ

いやあ…



あ、明かりを
消して…



何も
恥しがる事は
ないんだよ



僕らは
今夜から
夫婦なんだぜ



そ、そんな
恥しい事
言わないで…



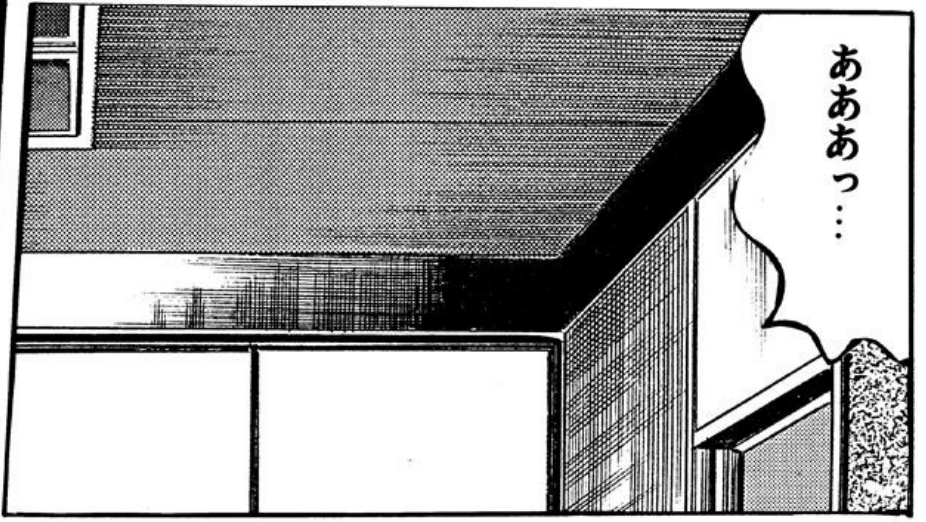
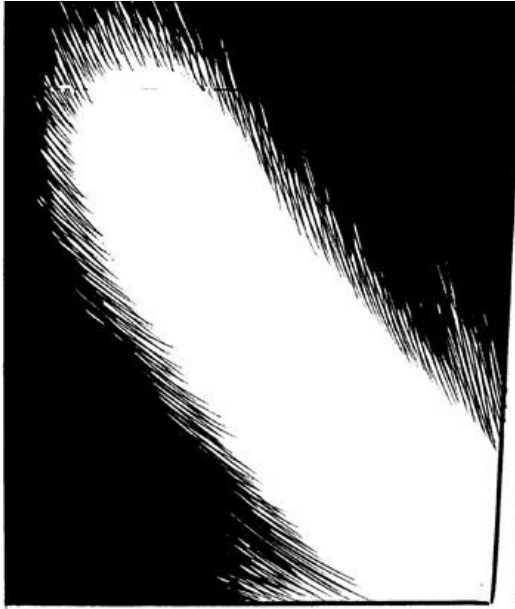
それにしても
毛深いなあ



こ、こんな
格好いやっ…

俺は
芳子のすべてが
見たいんだ

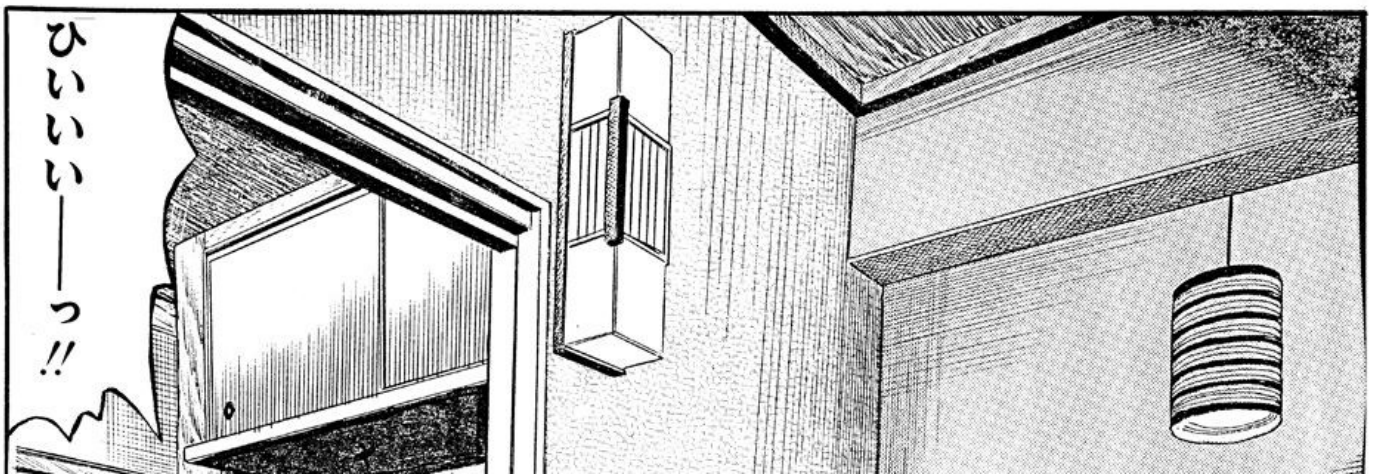
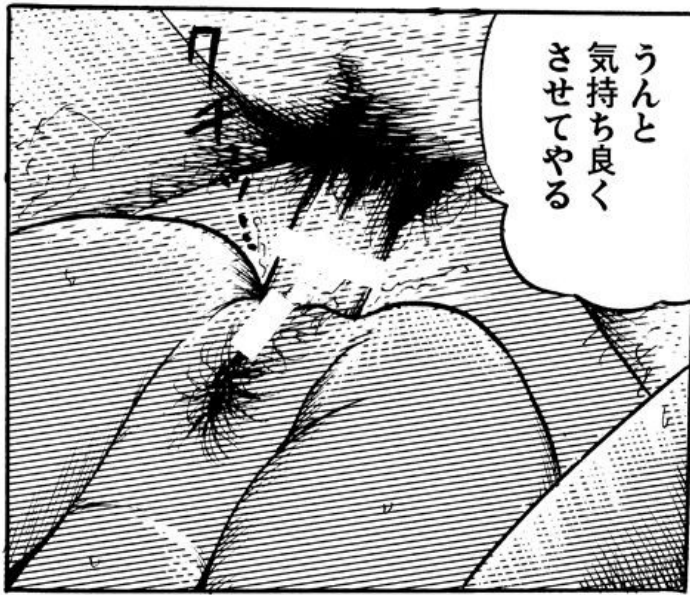




あああゝ…



は…初めて
なんです…
やさしくして…



どうだ？
男のものが
すっぽり体の中
に入った気分は



ただ
痛いだけ
ですっ!!



早く抜いて——っ!!



一ヶ月もすりゃあ
入れてほしくて
催足するように
なるんだぜ





明日からの
新婚旅行が
実は花嫁蔵行き
とは、一寸、気の毒な
感じですね



おじさん
ごらんさい

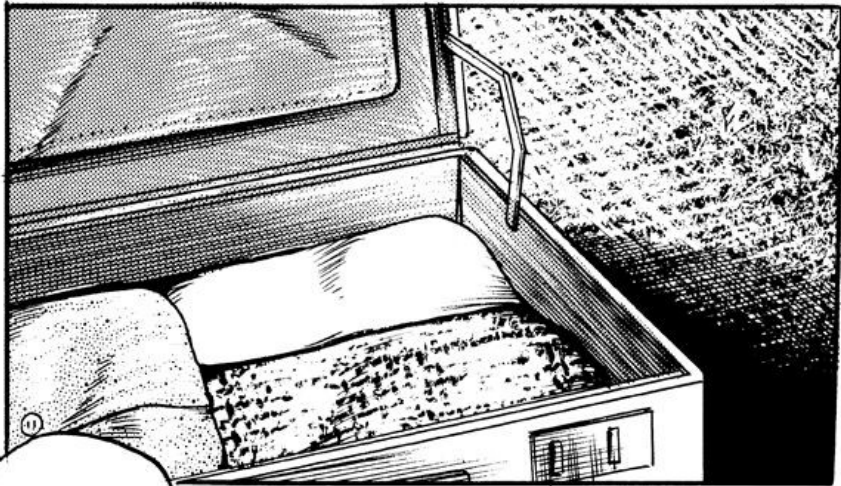
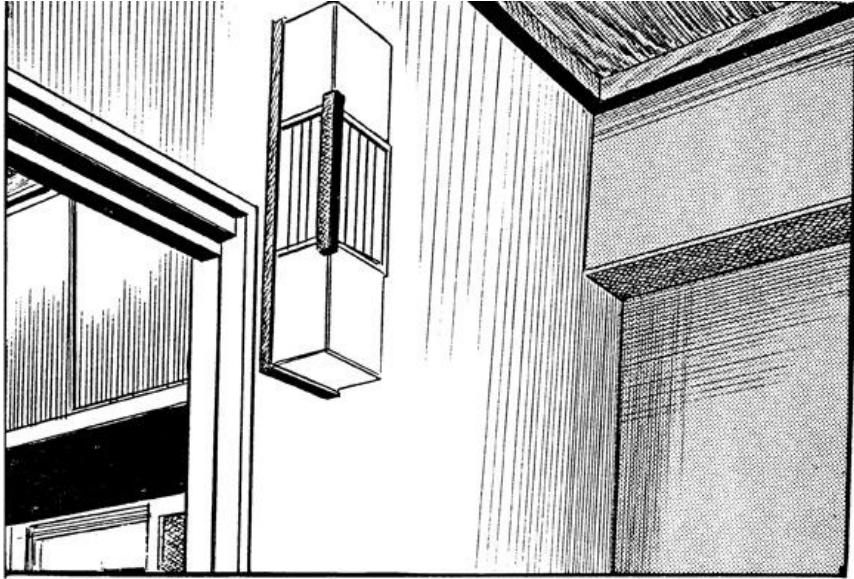
インサート状態を
こちらへ向けて
サービス満点ですよ



とにかく、
わしらも大いに
若返る事が
出来るって
ものさ



桜沢家の嫁に
なった女は
馴れるまで威嚇しを
すると決まっとるんだ



ちよっと
一緒に
来てくれないか



は、はい…？



芳子

旅行に
出かける前に
見せておきたい
ものがあるんだ



おそいぞ、
達雄君



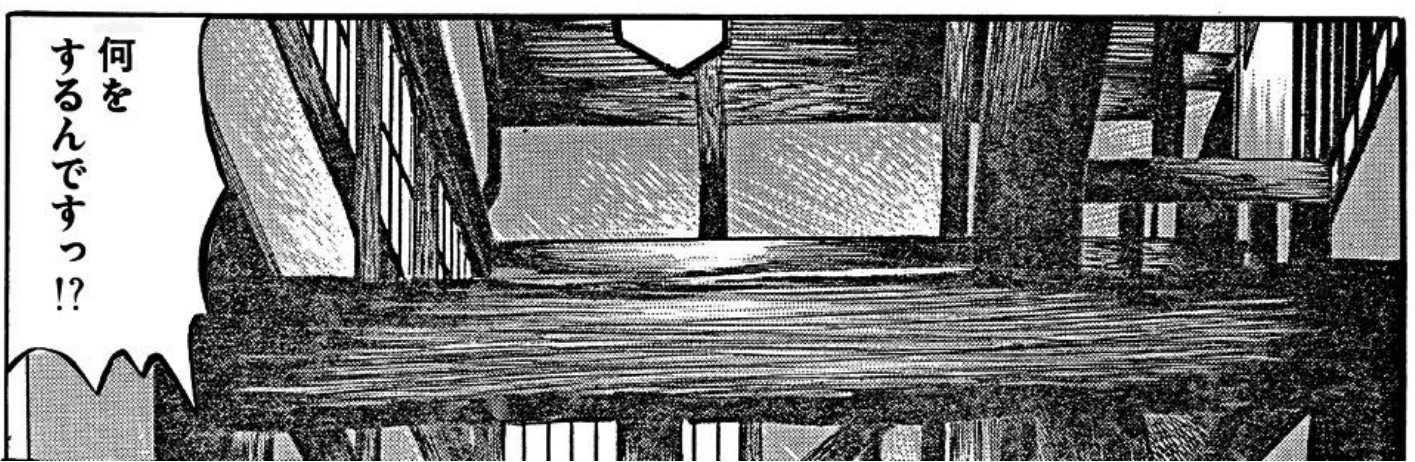
ガラガ
ニ
カ
ラ
ッ



達雄さん
ここには
一体どう云う…



平助
おじさま…



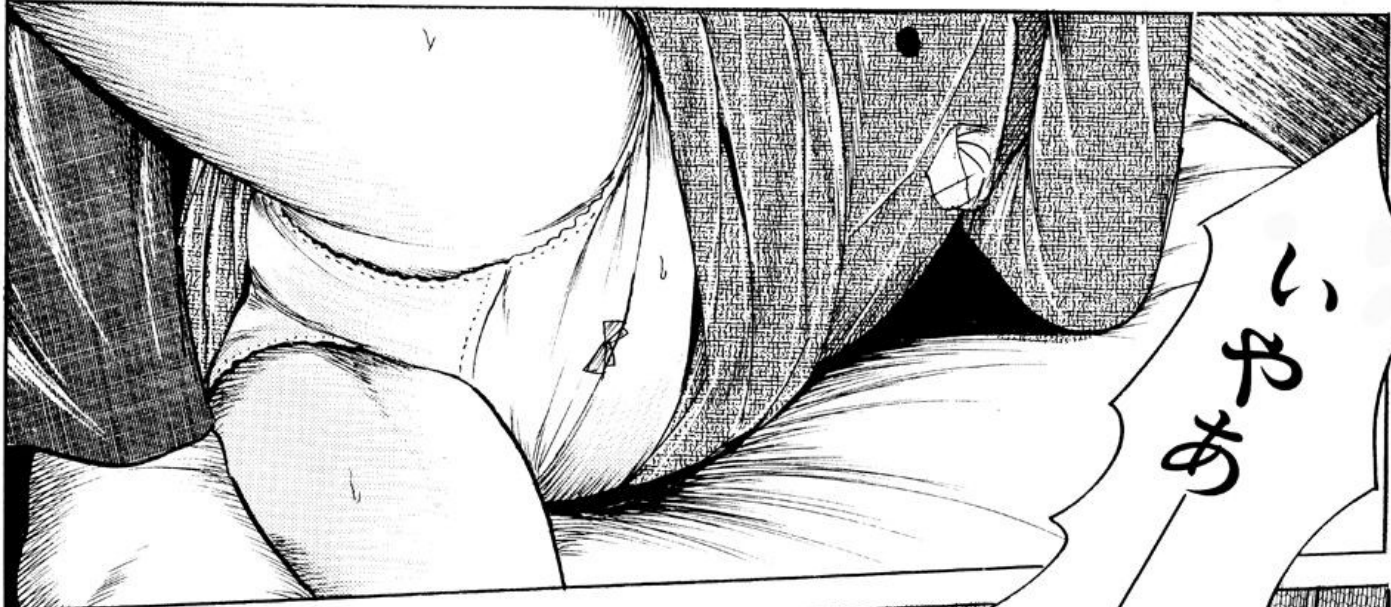
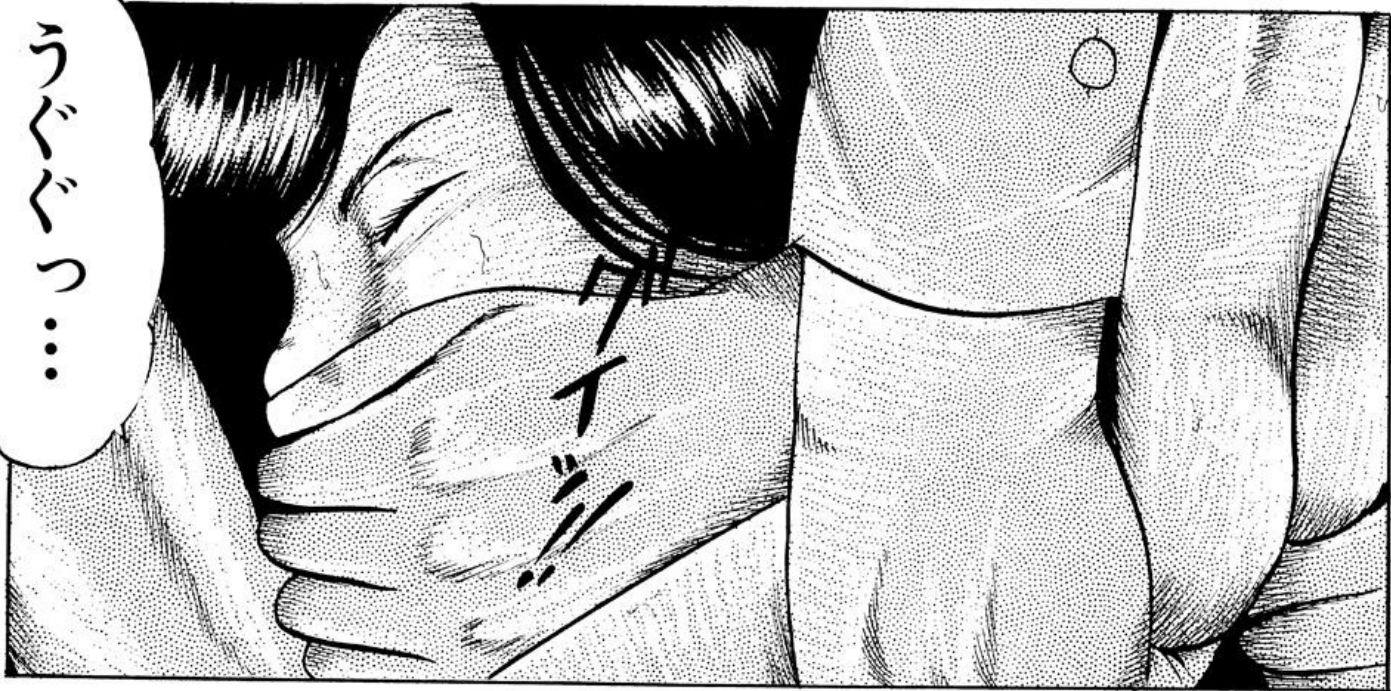
何を
するんですっ!!

五泊六日の
新婚旅行は
この花嫁蔵で
住ごすんだ

達雄さんっ……



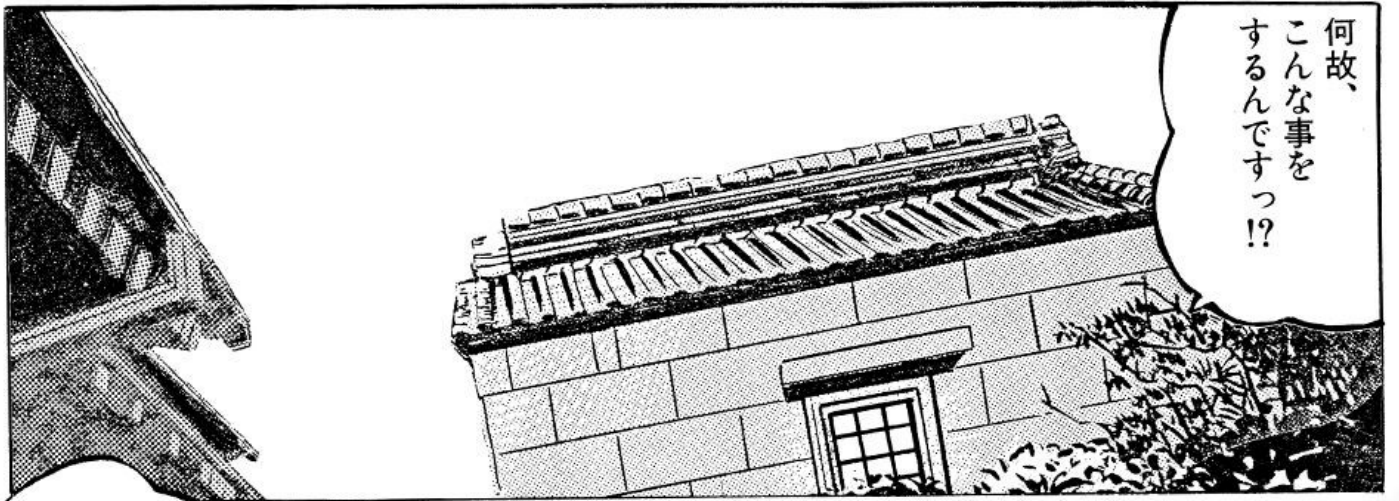
うぐぐっ…



おはは



!!

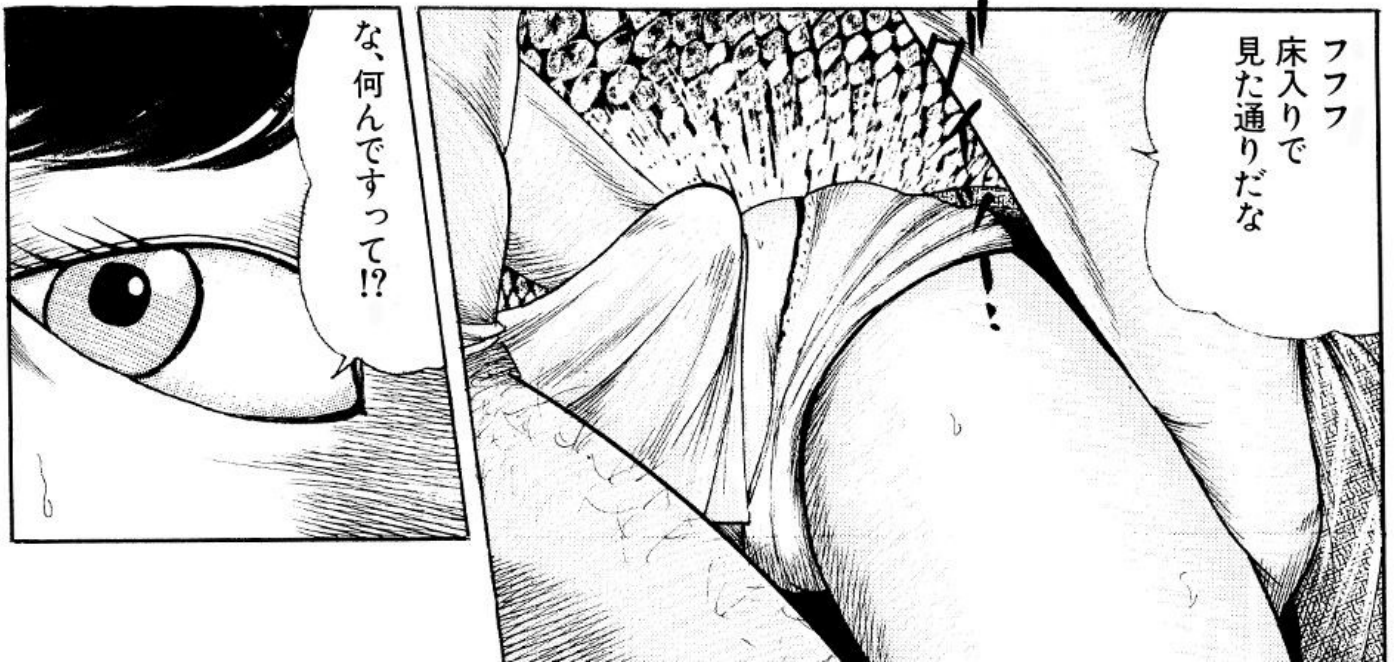


何故、
こんな事を
するんですっ!?



床入りの盃を
すませた時に
わしが言っただろ

お前は
達雄ひとりの
嫁ではないとな



フッフ
床入りで
見た通りだな

な、何んですって!?

むっちり
しとるのう

お伯父さまが
こんな事を
なさって
平気なのですか!?

桜沢家の
家訓ではな

わしは、お前の
夫と云う事にも
なるんだ

ズッ!

本家と分家の
跡とりの嫁は
誰もがこの
花嫁蔵に
入るんだ

脱がさないでーっ!!

達雄の
母親も、わしの
家内もこの蔵に
来た

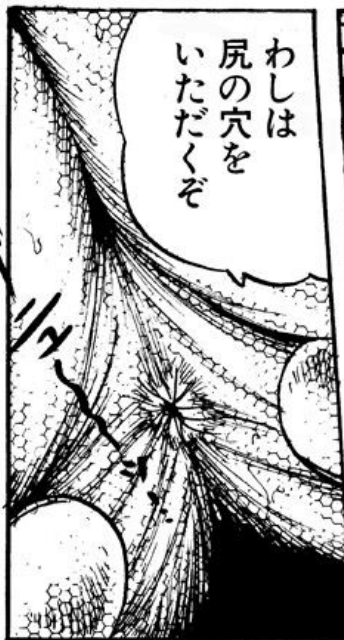
三年前は
従兄の嫁の
弥生だったんだ

何日で
ここから
出られるかは
お前次第さ





さあ、
これから
わしと
床入りだ



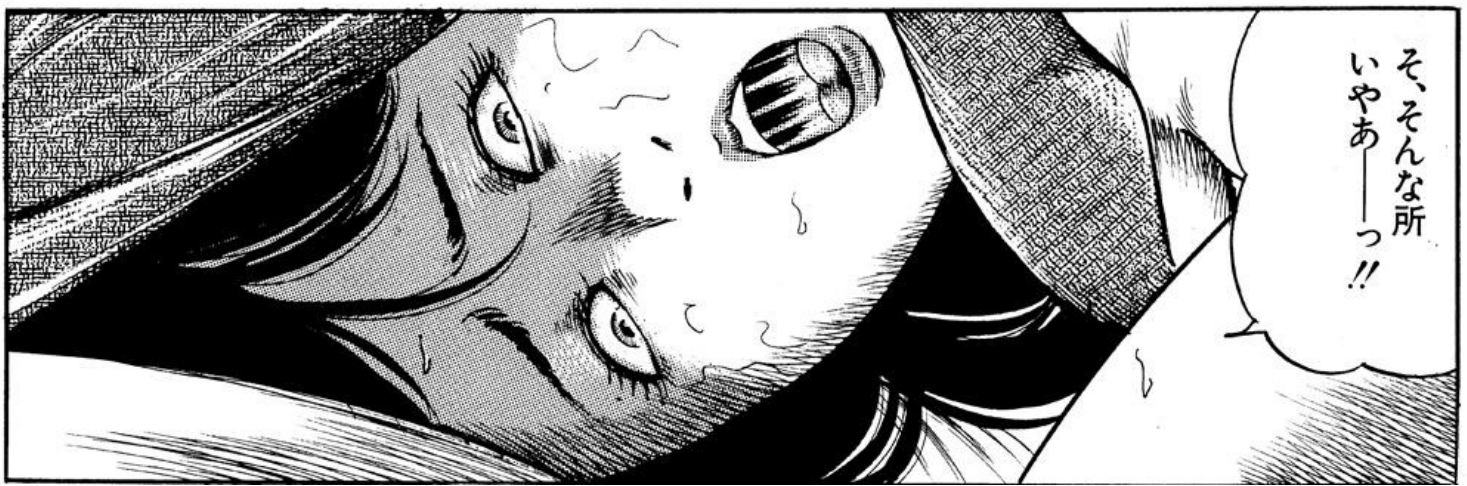
わしは
尻の穴を
いただくぞ



芳子、お前は
平助伯父さんの
嫁になるんだ



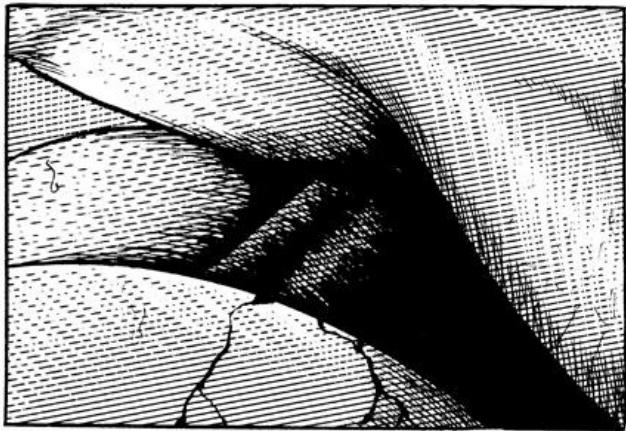
達雄さん、
助けてっ!!



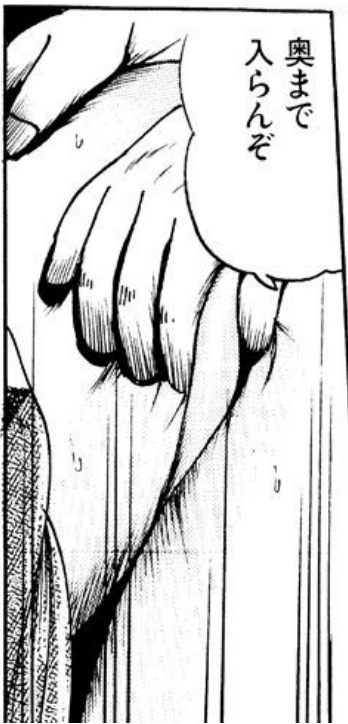
そ、そんな所
いやあ——っ!!



もうすぐ
わしの
嫁だぞ



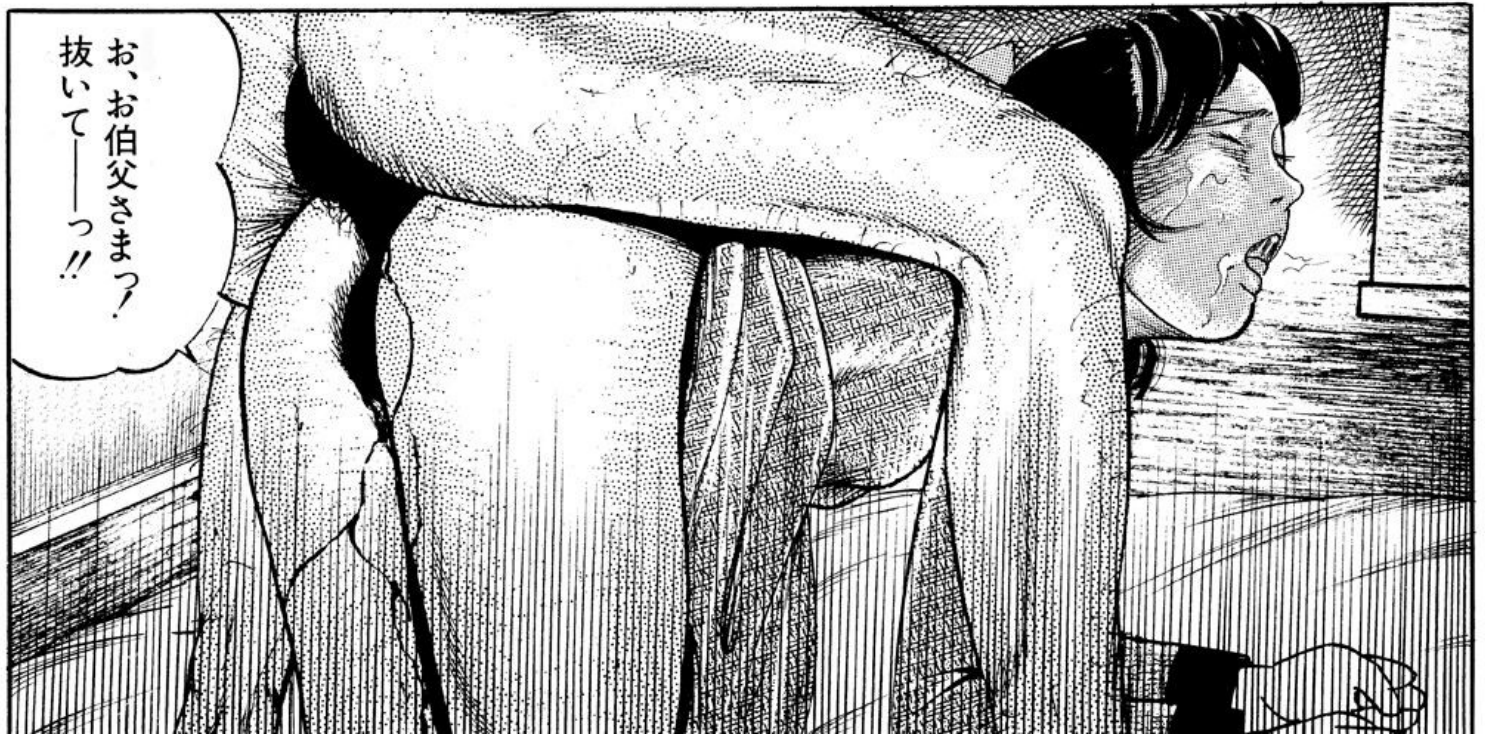
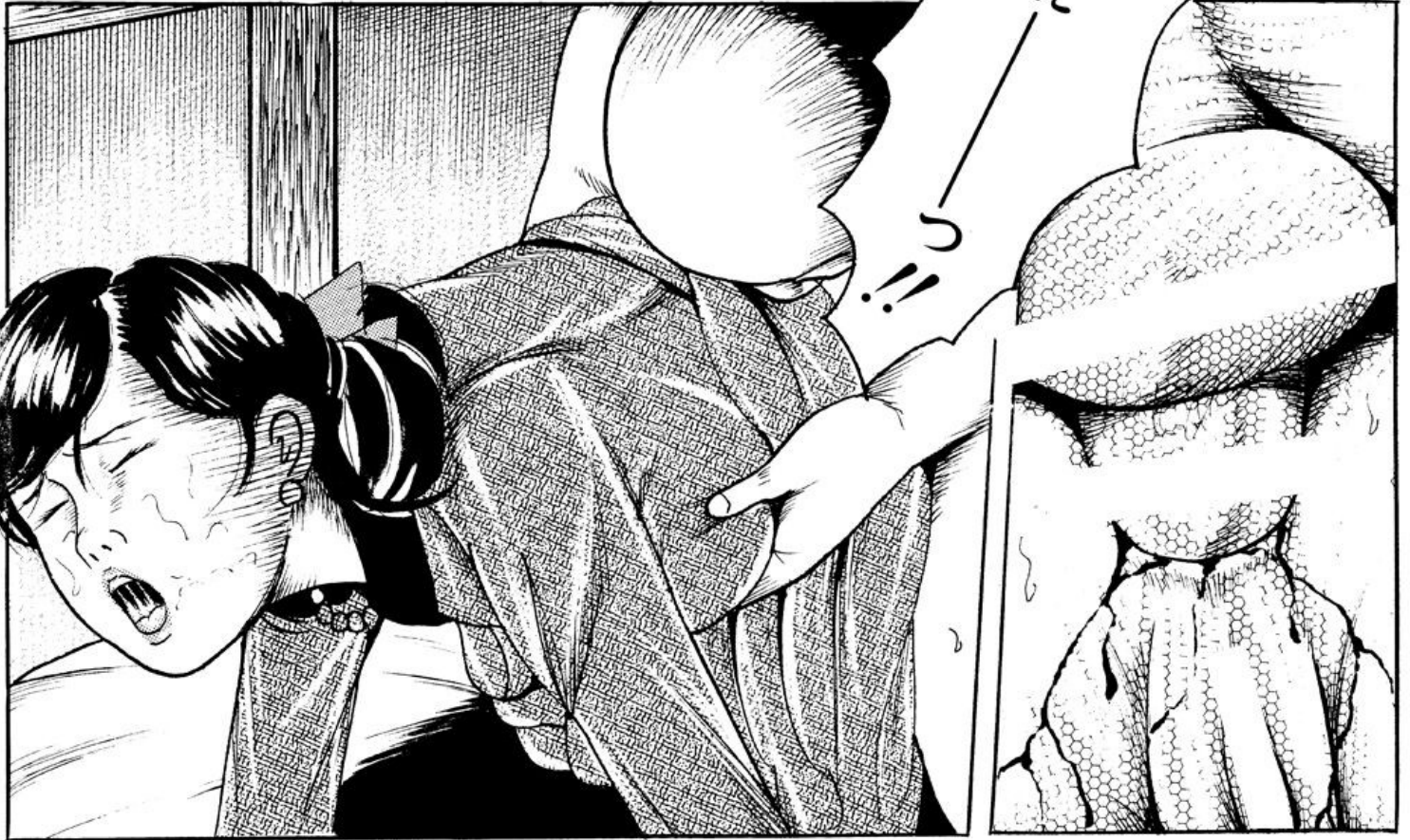
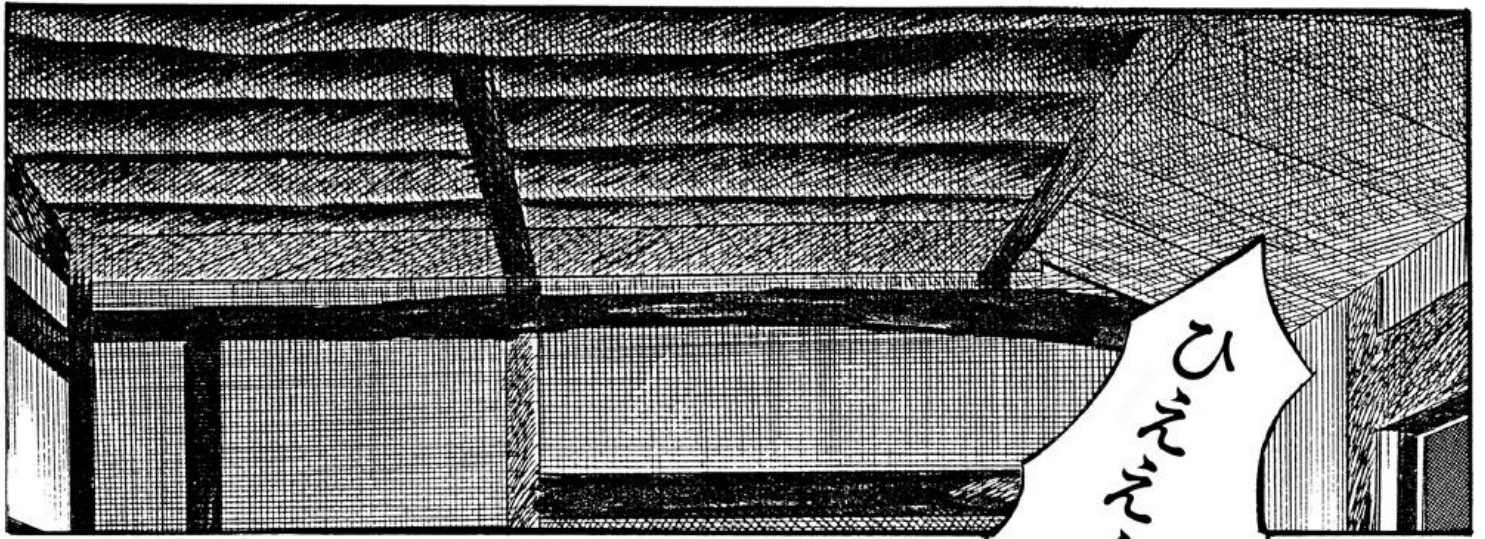
ひっ!!



奥まで
入らんぞ



ケツを
上げろ!







痛い——っ!!

とっっても
痛いんですっ!!



達雄君
見てみる
根本まで
すっぽりだろ



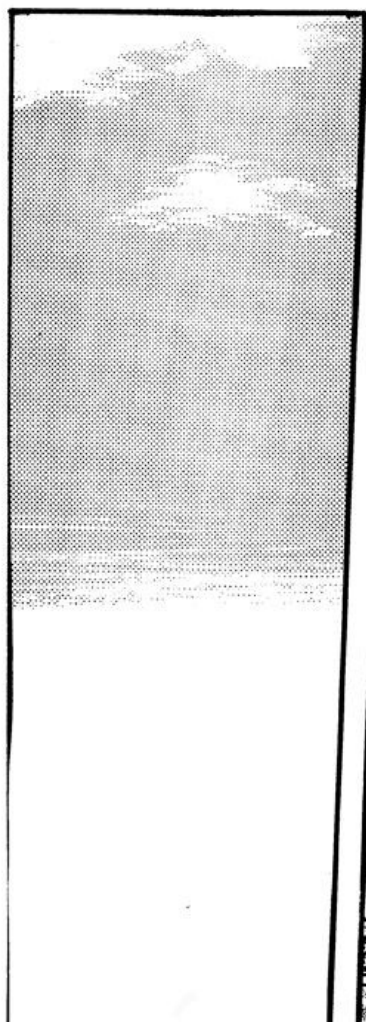
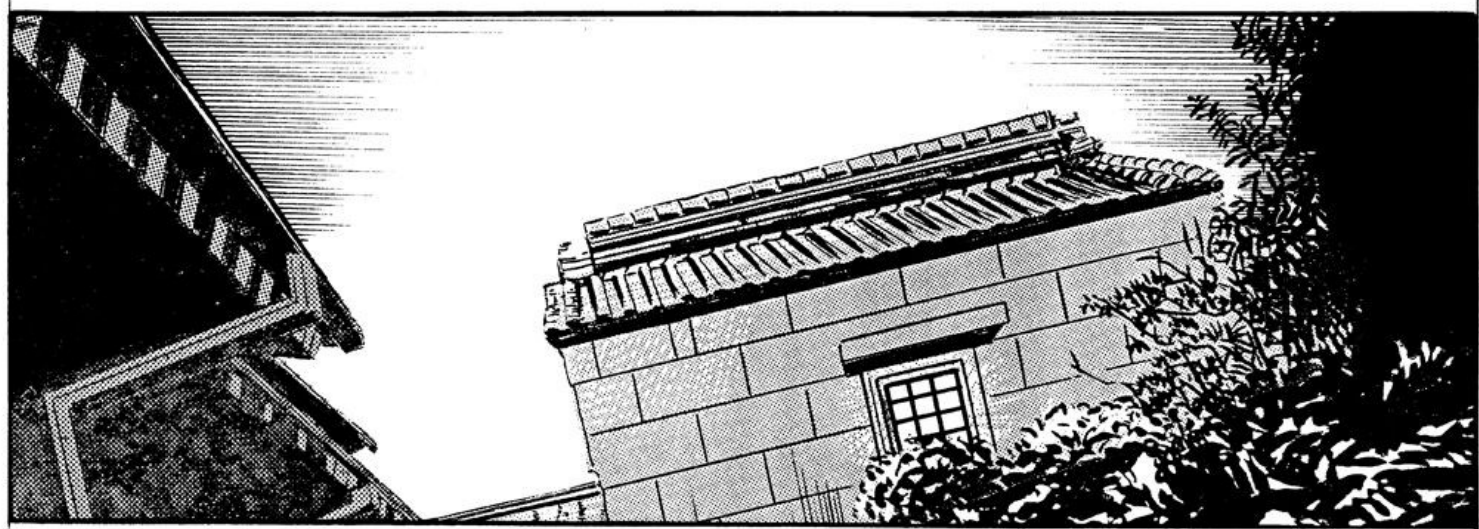
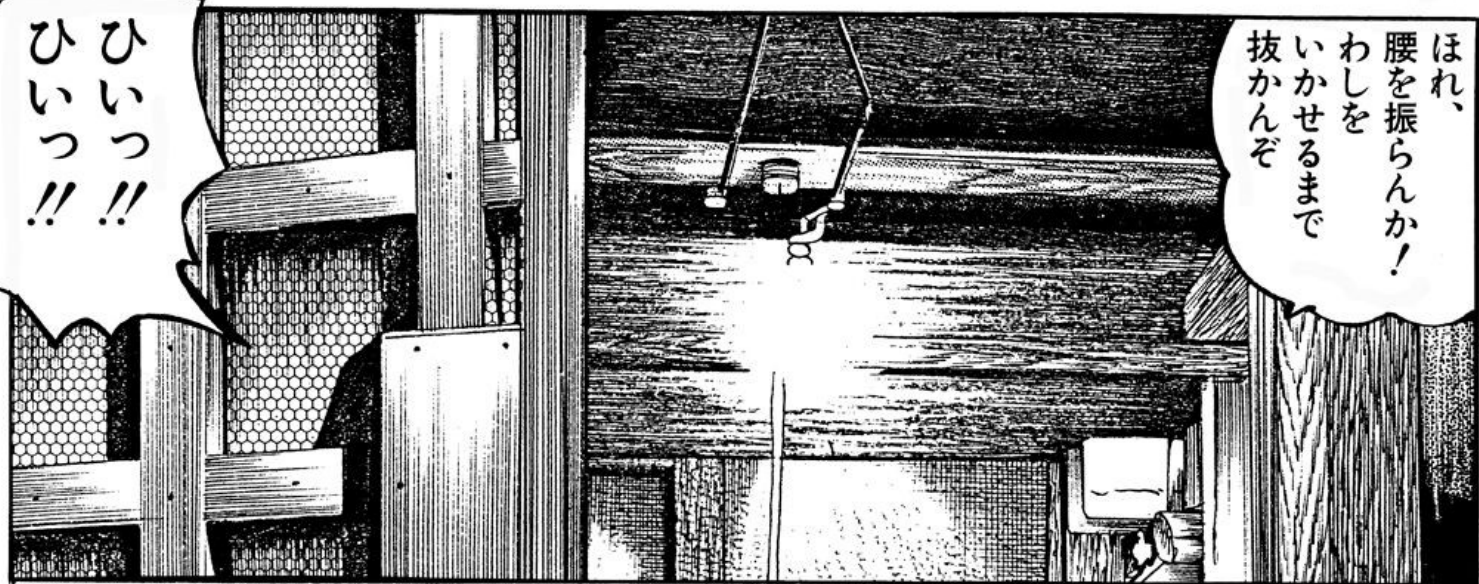
ぎえええ
——っ!!

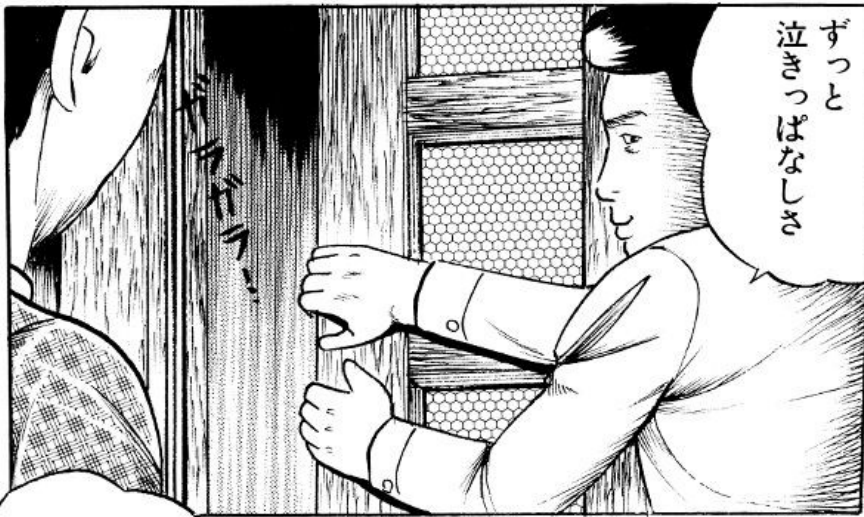


ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

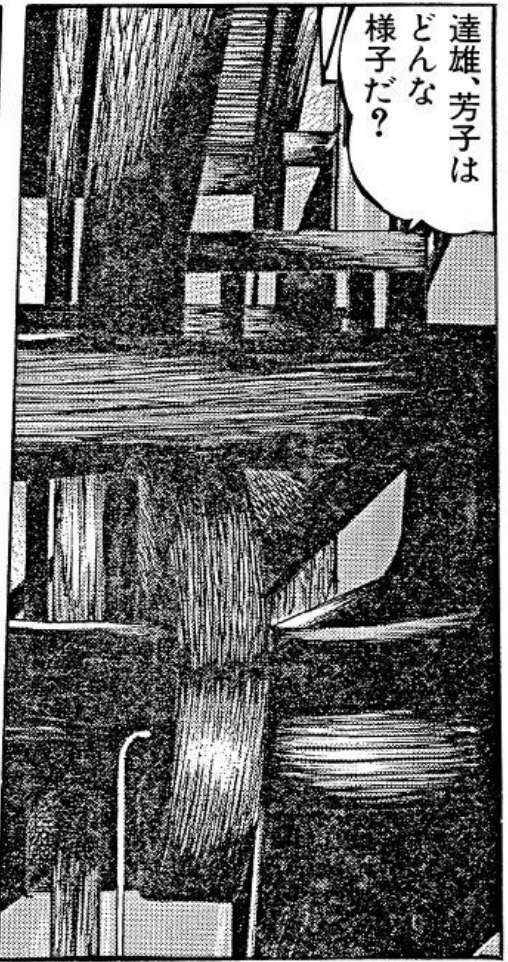
ひいっ!!
ひいっ!!

ほれ、
腰を振らんか!
わしを
いかせるまで
抜かんぞ





ずっと
泣きっぱなしさ



達雄、芳子は
どんな
様子だ？

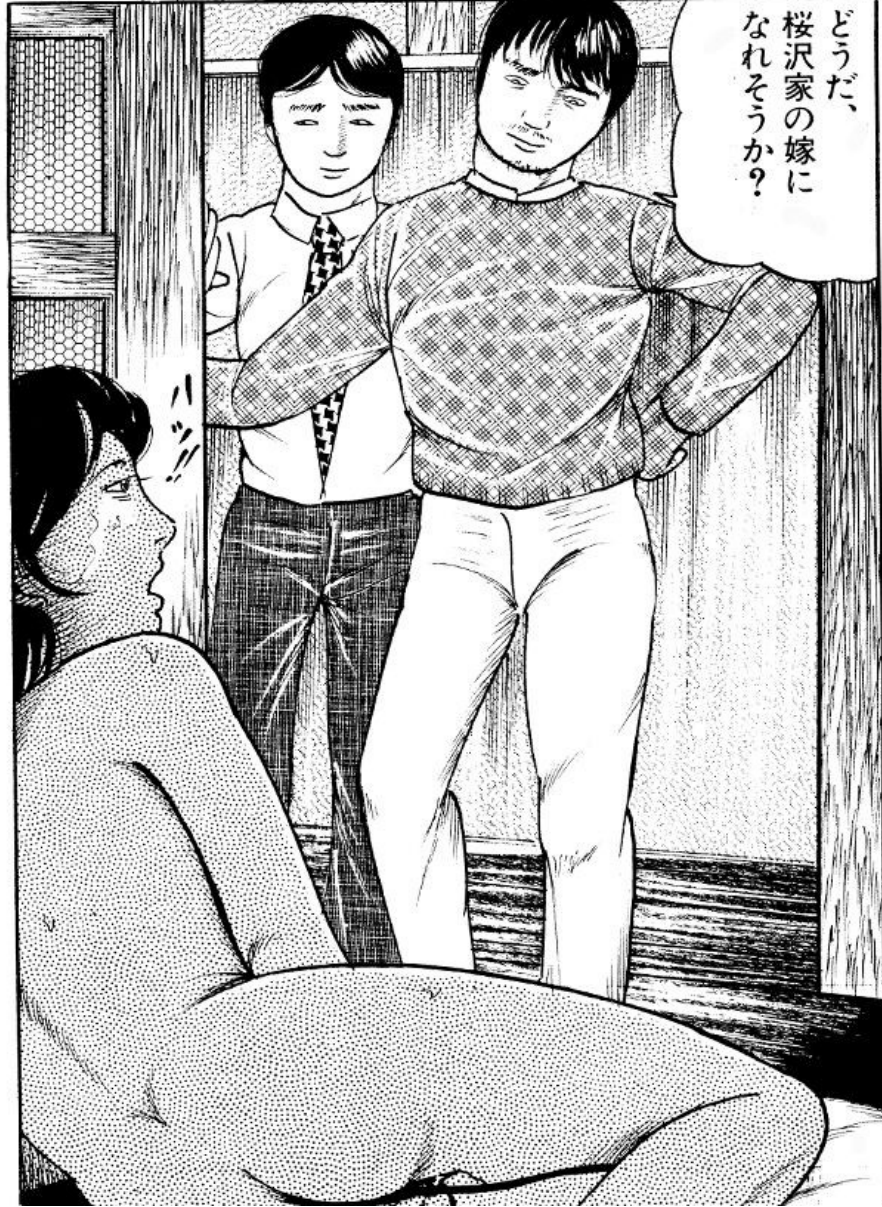


無理もないな

花婿の前で
伯父に
犯されたんだ



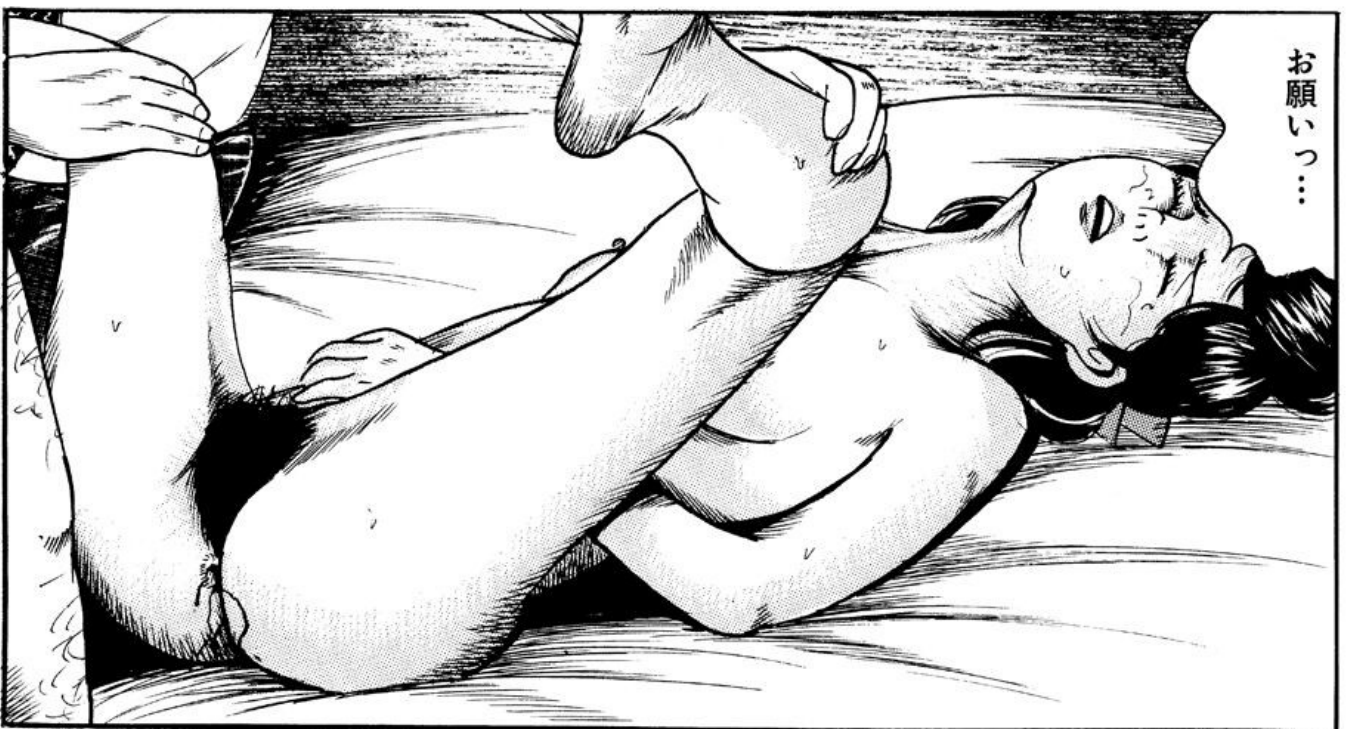
こっ
こっちに
来ないでっ！



どうだ、
桜沢家の嫁に
なれそうか？



この分じゃ
ハネムーンは
延期に
なりそうだな





いやらしい事は
止めてっ！



お前は
俺の花嫁だぜ



三番目の夫は
どんな事を
するのか、よく
覚えておくんだな



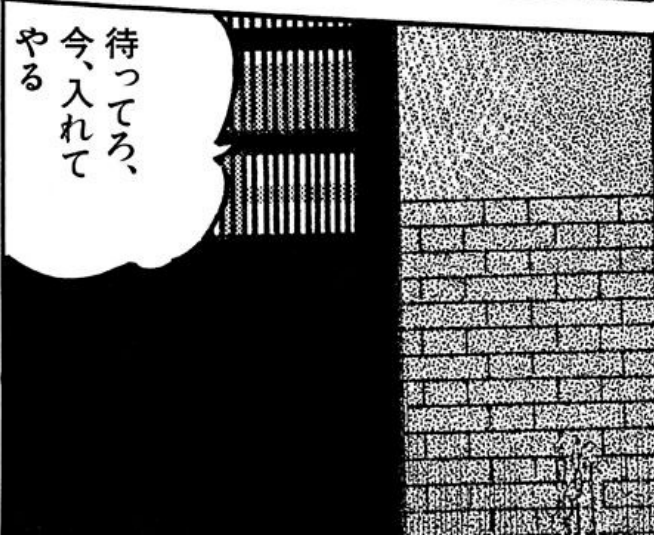
あ、ああっ…



なんだ、もう
ベタベタか



待ってろ、
今、入れて
やる





ふふふ……



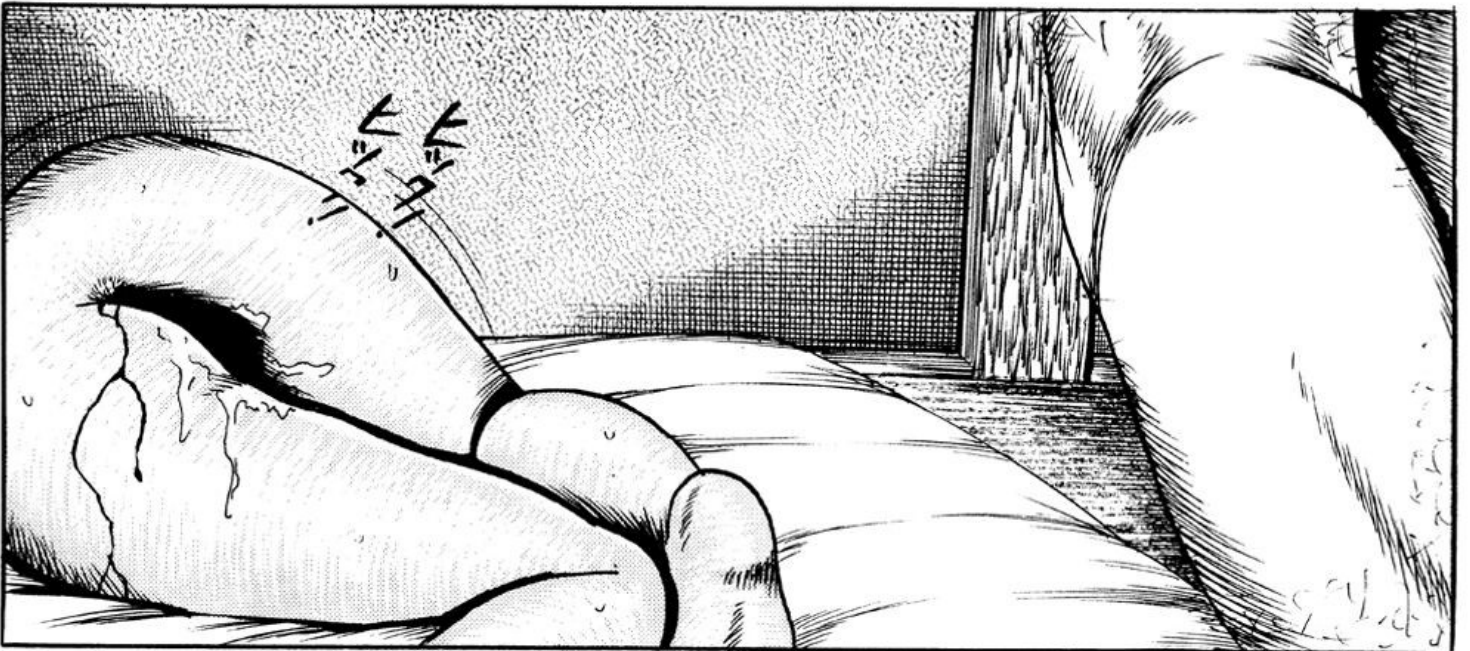
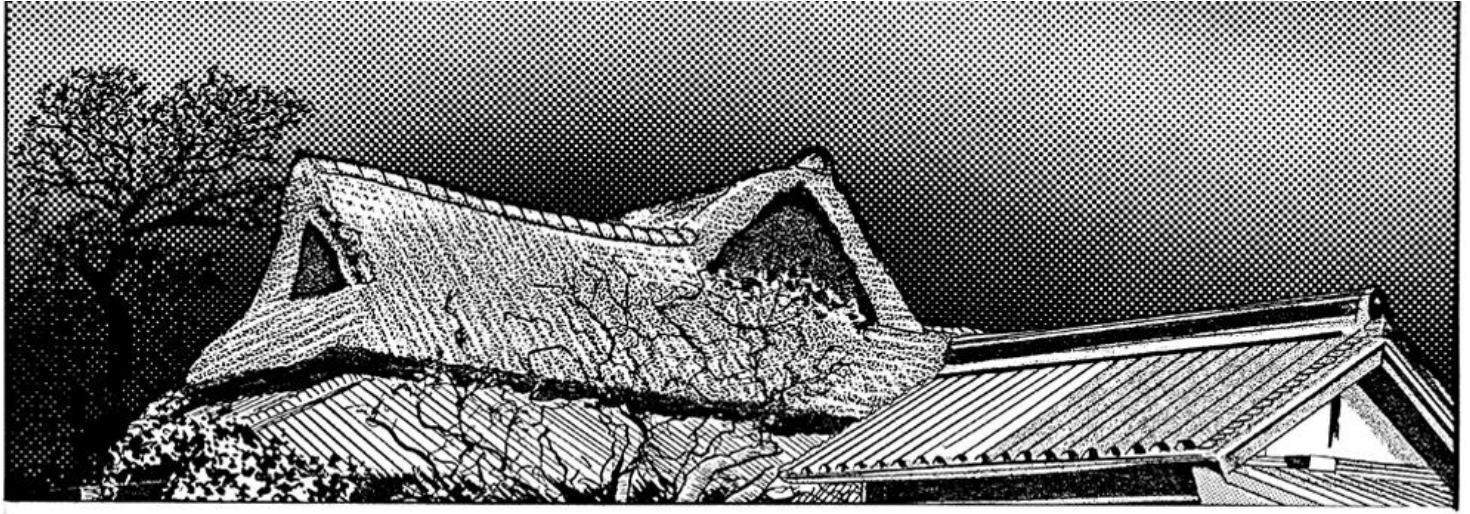
これが
俺だぞ

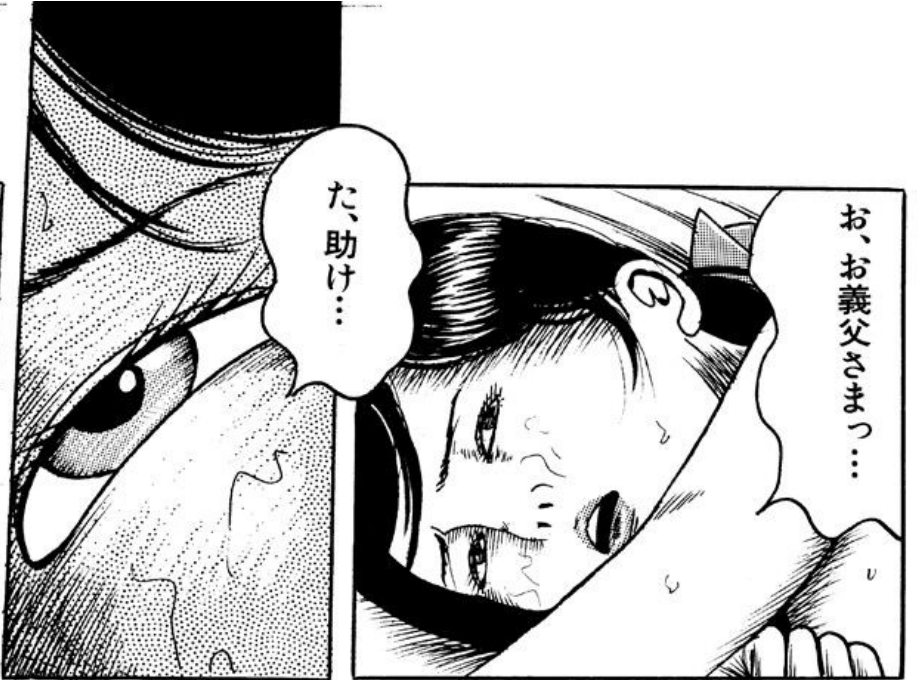
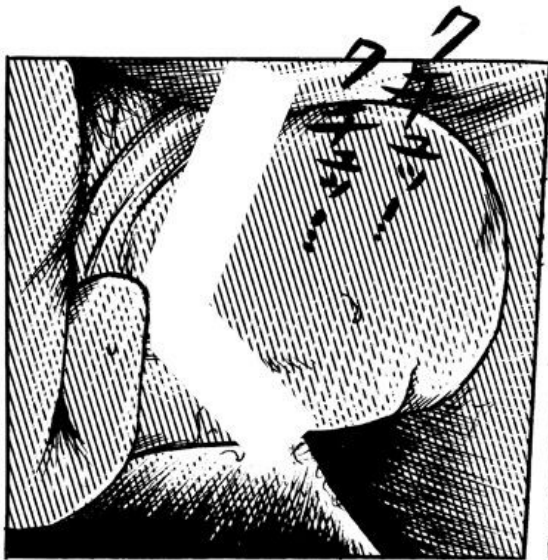


今回の嫁は
淫乱だな
フフフ……

俺は
伯父と違って
一発じゃ
終わらないぜ





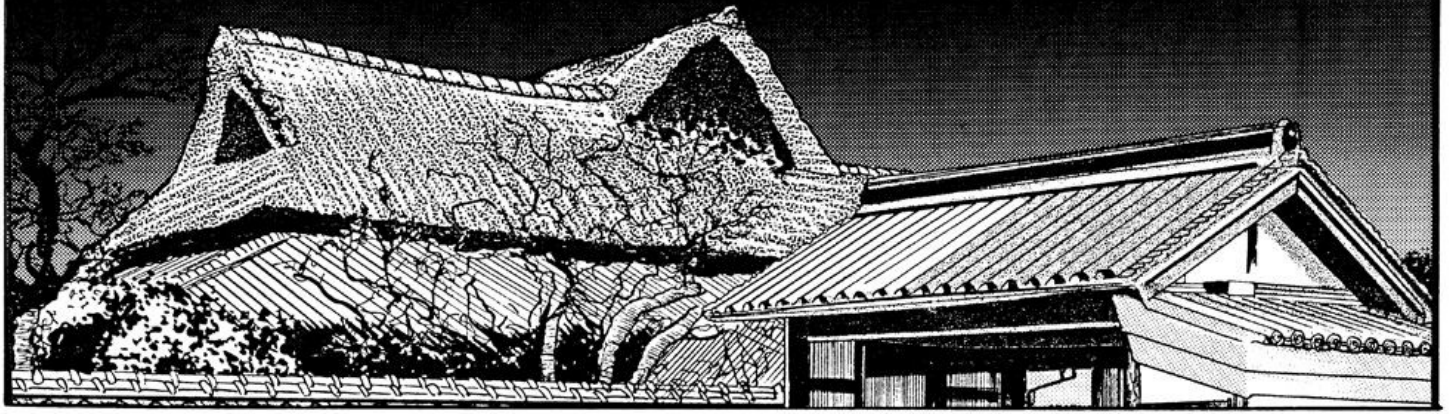


お、お義父さまっ…

た、助け…



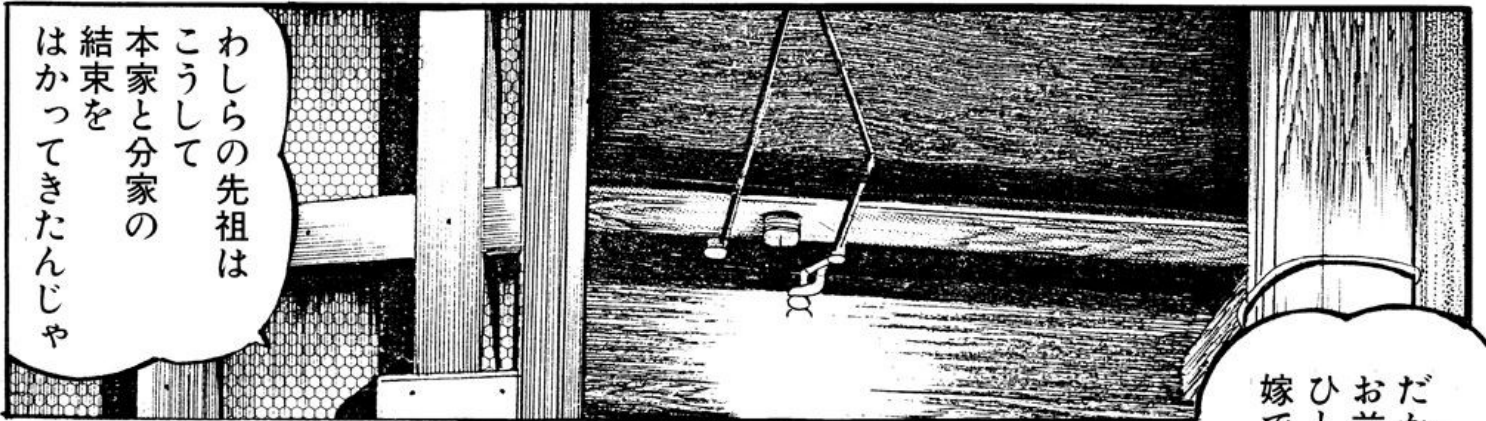
一日も早く
この花嫁蔵から
出られるように
努力するんだな





みんなのものと
なれば
争いも起きん

いいやあッ!!



だから
お前も達雄
ひとりの
嫁ではないんだ

わしらの先祖は
こうして
本家と分家の
結末を
はかってきたんじゃ



こんな結婚は
いやですっ!
離婚させて下さいっ!!

離婚などしてみろ
お前の家も
赤っ恥をかく事
なるんだぞ！

あ、ああっ…





わしはお前が達雄の嫁になるのを楽しみに待っておったんだ

五つか六つの頃に会った時



当時、仕事に失敗して困っていたお前の親父に



お、お義父さまっ！



お前は必ず美しい女に育つと思ってた



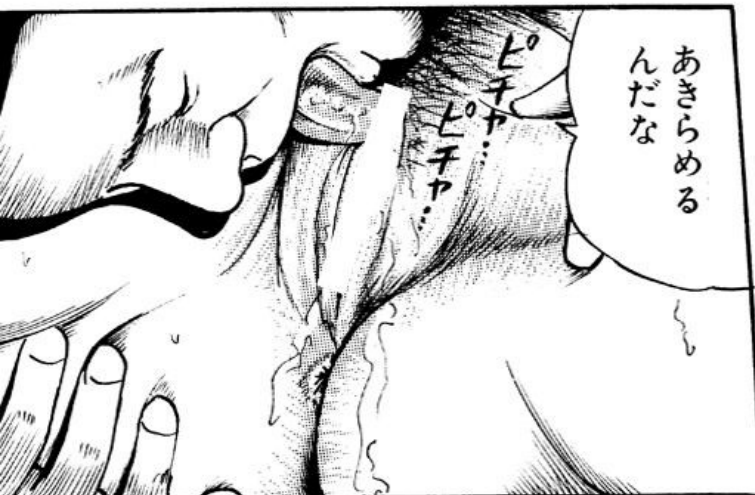
達雄との婚約を申し込んだ

条件は無利息無期限で金を貸すと云う事だな



云うなれば
お前は金で
買われた花嫁
なんだ

うぐぐぐっ!!



あきらめる
んだな

トキヤ
トキヤ



ここを出て
いけば
お前にもどる家は
ないんだ

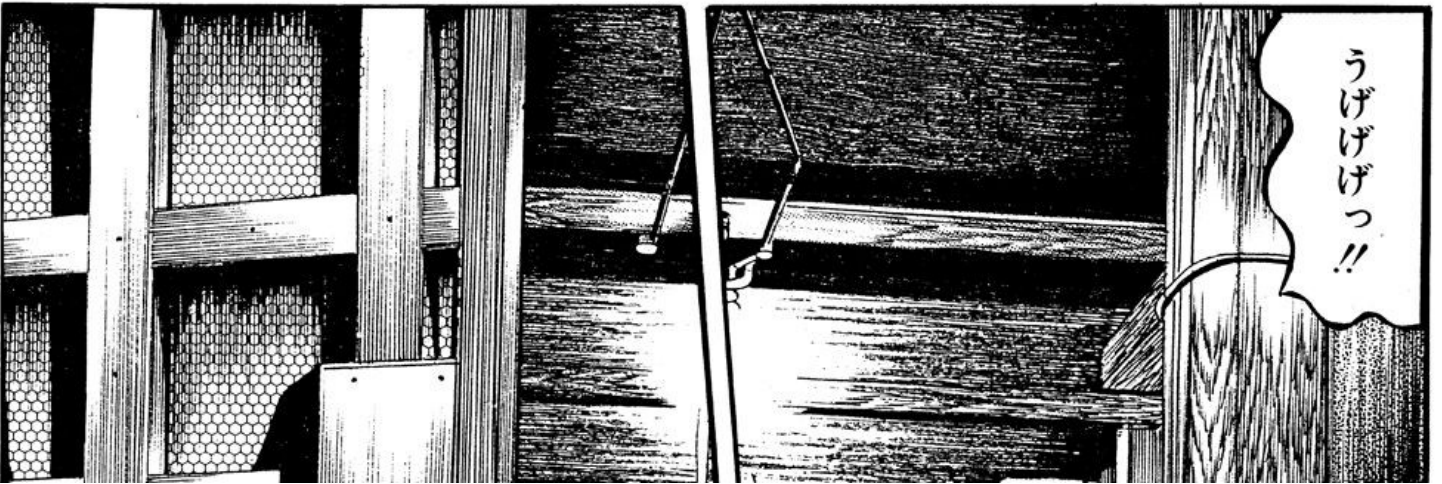
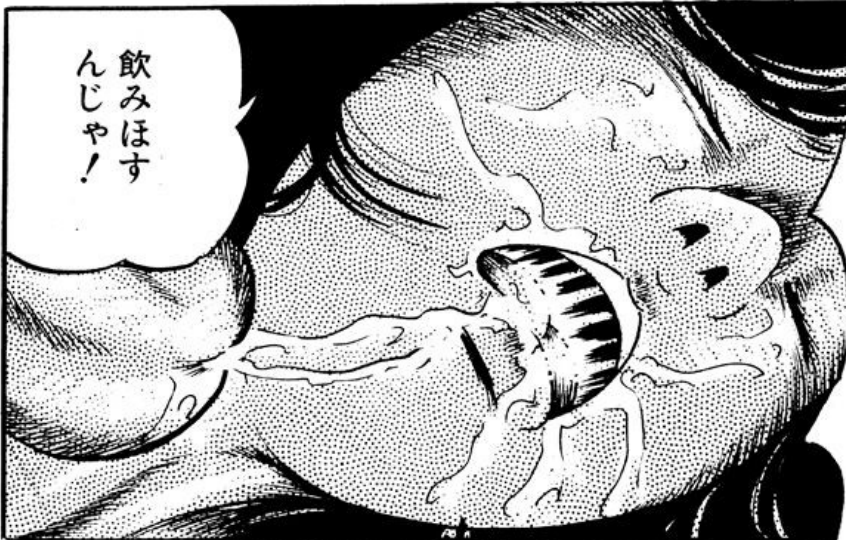
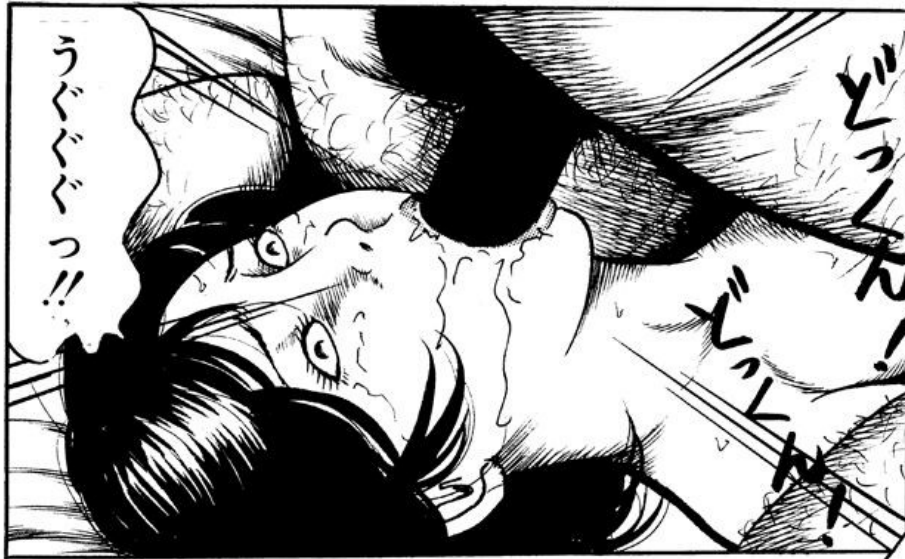


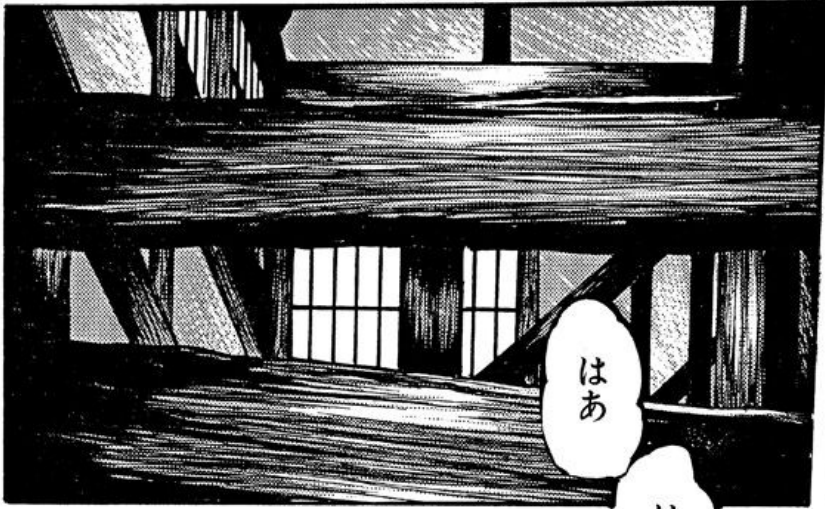
ううう...





うっ...

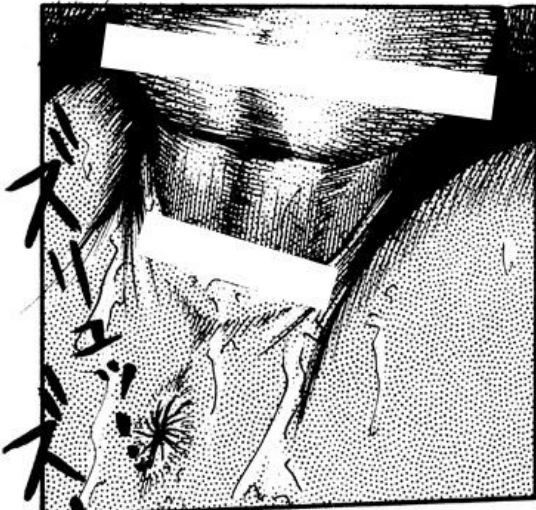




はあ

はあ

はあ



芳子、お前は
これで四人の男を
知ったわけだが
誰のが一番
感じる？



わしは
最年長だが

大きさだけは
誰にも
負けんつもりじゃ





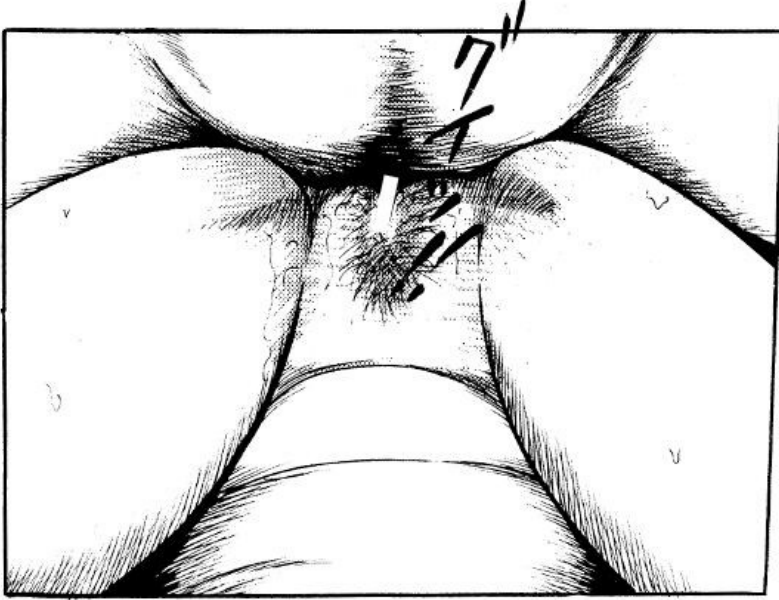


こいつが、
満足出来ないと言
うてな



わしを
離さんのじゃよ

ち、違います…



何が
違いますだ



あ、ああつ…



今度は
三人で楽しませて
やれ

こいつは
桜沢家の
嫁だ



うれし涙を
流しっぱなしで
くわえ込んだ
ままじゃないか



ひええっ!!



もう、いやあ——っ!!



へへへ…



フフフ…



身も心も
とことん
なぶられてこそ
桜沢家の
嫁となるんじゃ





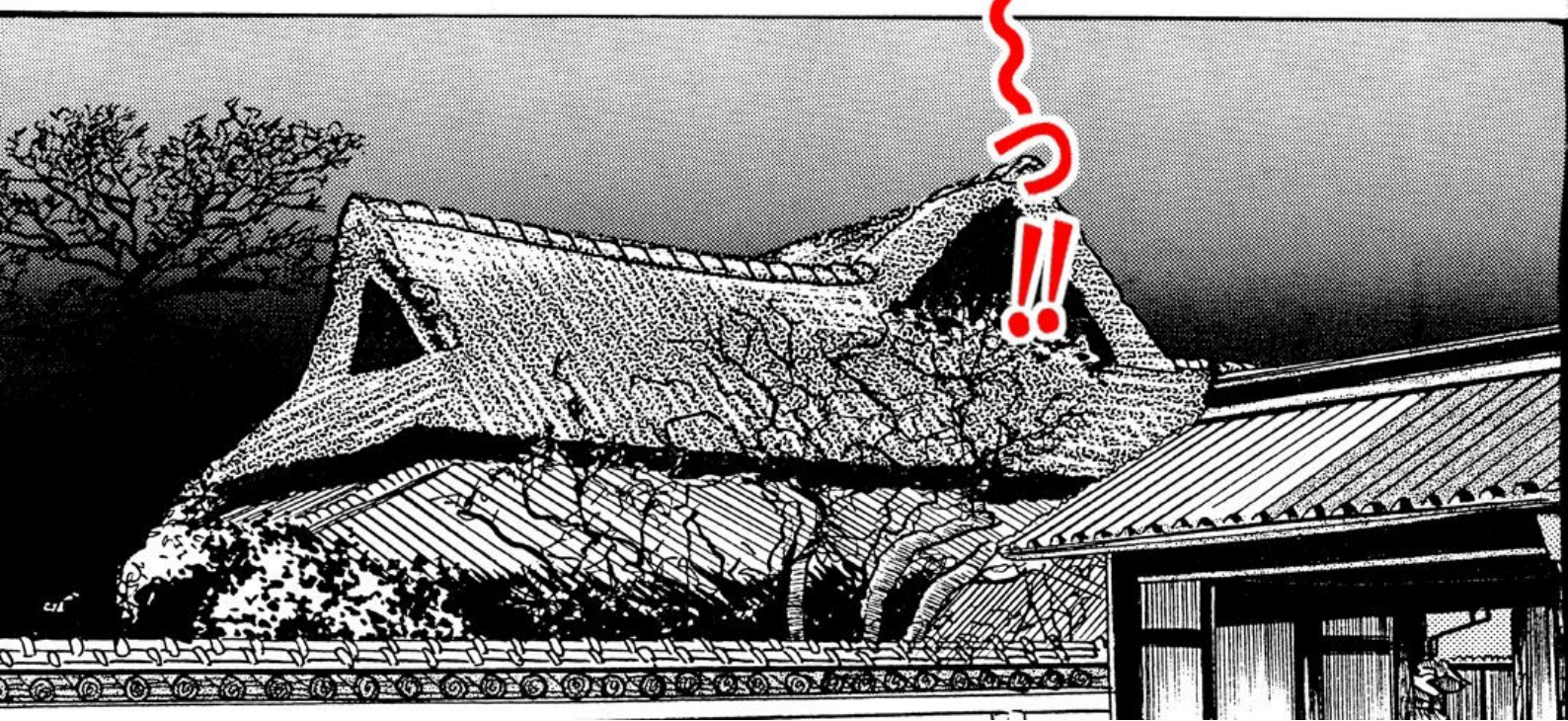
ぐええええええ!!



芳子、お前は
これで本当に
わしらの嫁だ



ひ
い
い
い
つ
!!



桜沢家の
狂宴は
数ヶ月以上も
続けられた……



完